

## 第30回ユニバーシアード競技大会バスケットボール報告

柏倉秀徳\*

Report of 30<sup>th</sup> Universiade Basketball Games

KASHIWAKURA Hidenori\*

## 1. はじめに

2019年7月3日から14日にかけて、第30回ユニバーシアード競技大会（以下、2019ナポリ）がイタリア・ナポリにて開催された。ユニバーシアード女子日本代表チーム（以下、ユニバ代表）は、2015年は4位、2017年の前回大会では第3回大会以来となる実に50年ぶりの銀メダルを獲得し、本大会では初の金メダル獲得を目標として臨んだ。本大会には、筑波大学女子バスケットボール部から佐藤由璃果（体専3年）と本学卒業生の松本愛美（富士通レッドウェーブ、2018年体専卒）が日本代表に選出され、著者も代表コーチとして帯同した。本稿では、コーチの立場から見た2019ナポリについて報告する。

## 2. 代表選手選考

2019年度の活動として、2019ナポリに向けてのユニバ代表の選考合宿を2018年12月22日（土）～25日（火）の期間に実施した。有資格者抜きの大学生のみ30名で合宿を行い、16名を選考した。その後、2019年3月4日（月）～3月7日（木）に有資格者4名を加えた20名で合宿を行い15名を

選考した。最終的に、2019年3月26日（月）～4月1日（月）に実施された、台湾での海外合宿において、本大会に出場する12名を選考した。選考については、現場のコーチングスタッフである、ヘッドコーチ佐久本智（JX-ENEOS サンフラワーズ）を中心にスタッフ（チームリーダー野寺和彦・玉川大、コーチ木下佳子：日本体育大学、筆者）4名で行った。主な選考基準におけるプレイポイントは以下の通りであった。

1. トランジション（速い攻防の切り替え）
2. ドライブからのキックアウト、レイアップ
3. 積極的なリバウンドやルーズボールへの参加姿勢
4. キャッチ&シュート
5. 1 on 1 ディフェンス
6. プレイ（特にディフェンス時）でのコミュニケーション
7. コンタクトプレイ

## 3. 本大会までの代表合宿

ユニバ代表の12名が決定し、強化日程が示された（表1）。大会までの合宿は、6月14日（金）

表1 第30回ユニバーシアード競技大会に向けた強化合宿日程

日付	合宿日程	主な活動
6月14日		一部練習
6月15日	強化試合 日立ハイテクノロジーズ	二部練習（AM練習、PM試合）
6月16日	強化試合 日立ハイテクノロジーズ	二部練習（AM練習、PM試合）
6月21日		移動日
6月22日	強化試合 三菱電機コアラーズ	二部練習（AM練習、PM試合）
6月23日	強化試合 三菱電機コアラーズ	二部練習（AM試合、PMアイシンに移動後練習）
6月24日	強化試合 アイシン・エイ・ダブリュウイングス	一部練習（試合）

\* 筑波大学体育系  
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

～16日（日）と6月21日（金）～24日（月）の2回行い、バスケットボール女子日本リーグ（WOMEN'S JAPAN BASKETBALL LEAGUE 以下、WJBL）所属のチームである、日立ハイテクノロジー（茨城県日立市）、三菱電機コアラーズ（愛知県名古屋市）、アイシン・エイ・ダブリュウイングス（愛知県安城市）と試合を組み強化合宿を行った。

#### 4. 本大会

##### (1) 日程

2019ユニバの主な日程は表2の通りである（表2）。

表2 大会日程と主な活動

日付	大会日程	主な活動
6月27日	集合	一部練習
6月28日		AM練習 PM結団式、 インテグリティ研修
6月29日	出発／到着	
6月30日		一部練習
7月1日		アメリカとの練習試合 @US Navy Base
7月2日		一部練習
7月3日	予選(1日目)	VSウクライナ
7月4日	予選(2日目)	VSハンガリー
7月5日	予選(3日目)	VSチェコ
7月6日		一部練習
7月7日	準々決勝	VSロシア
7月8日	準決勝	VSアメリカ
7月9日		一部練習
7月10日	3位決定戦	VSポルトガル
7月11日	出発	
7月12日	解散	

##### (2) 現地環境

6月29日の午前日本を出発し、同日の夜に現地に到着した。時差は7時間であった。バスケットボール競技の選手村は、ナポリ空港から30km程離れたカセルタ地区に位置するホテルだった。選手村に宿泊できたのは、選手12名とスタッフ3名の15名であったため、残りのスタッフ（筆者含む）は、

選手村から徒歩で約15分程のホテルが宿舎であった。試合会場等への移動手段は選手村から、大会専用のバスだった。毎日選手村以外のスタッフは宿舎から選手村まで徒歩で向かっていたが、今夏のヨーロッパは熱波の影響からか、猛暑だったようで移動も一苦労だった。宿泊ホテルやバスの中は冷房が効いていたが、練習会場や試合会場は、場所によっては効きが悪く大変暑い中での試合もあったため、選手の体調管理は難しいように感じた。

##### (3) 初戦まで（6/30～7/2）

初戦までの3日間では、2回の練習とアメリカ代表との1回の練習試合が組まれた。1回目の練習は、前日に日本から長時間の移動であったため、主にコンディショニングを整えることと、戦術の確認を行った。7月1日のアメリカ代表との練習試合は、イタリアにあるアメリカ軍施設内の体育館で行われた。ユニバ代表の選考合宿や12名に選ばれてからは、アジア圏（台湾合宿時での台湾実業団チームと大学、WJBLチーム）としか対外試合を組んだことがなかったため、大会直前でのアメリカ代表との試合は、本大会の予選グループで当たるヨーロッパ国との対戦に臨むにあたり大変貴重な試合となった。特に、体格、身体能力差から生じた、リバウンド、1対1のフィジカルやディフェンス力の強さをユニバ代表が実践を通して経験できたことは非常に良かったと思う。最終的に、試合には敗れた（78-79）ものの、日本の武器でもあるトランジションからの得点で30点取れたこと、ドライブからのキックアウトやレイアップなどのスキルが通用したことは大きな自信となった。一方で、リバウンドでは、アメリカ代表に16本多く取られたことや、ミスの多さが課題として残った。翌日の2回目の練習では、前日の練習試合で挙げた課題への対応と、7月3



図1 選手村のホテル



図2 選手村での食事の様子



図3 本会場（第2戦、準決勝、3位決定戦会場）



図4 初戦会場



図4 第3戦会場

日からの初戦への準備を行った。

3位 ポルトガル  
4位 日本

#### (4) 大会期間（7/3～7/10）

下記は、2019 ナポリでのユニバ代表の大会結果を表している。最終結果は、16 チーム中 4 位であった。

##### ■予選リーグ

第1戦 ○ 日本 63（20-11、15-11、16-10、12-16）48 ウクライナ ●

第2戦 ○ 日本 72（12-16、14-18、28-9、18-11）54 ハンガリー ●

第3戦 ○ 日本 93（25-19、21-10、19-20、28-16）65 チェコ ●

##### ■決勝トーナメント

準々決勝 ○ 日本 89（22-23、16-19、31-19、20-22）83 ロシア ●

準決勝 ● 日本 84（26-22、30-26、17-22、11-19）89 アメリカ ○

3位決定戦 ● 日本 59（17-13、12-19、19-11、10-15、1-8）76 ポルトガル ○

##### ■最終結果

優勝 オーストラリア

準優勝 アメリカ

#### (5) 予選リーグ

初戦のウクライナ代表戦は、緊張の硬さからか立ち上がりが非常に重かったが、トランジションからの得意な速い展開に持ち込むことができリードを広げ開幕戦を勝利した。続くハンガリー代表との2戦目でも、積極的な攻撃とトランジションからの得点、豊富な運動量でのディフェンスを仕掛け快勝した。チェコ代表との3戦目では、それぞれ既に2勝を挙げている同士の対戦となった。ここでもユニバ代表が、素早いトランジションからとアウトサイドシュートなどの得点で試合の主導権を握ると、一気に点差を広げることができ完勝し、3戦全勝で予選リーグを首位で通過した。予選リーグで対戦した3か国の平均身長は全て180cmを超えており（ユニバ代表の平均身長は173cm）、リバウンドの獲得は今大会の課題でもあった。しかし、初戦の獲得本数は負けていたものの、2、3戦ではユニバ代表が対戦国よりも多く獲得していた。また、試合を重ねるごとに、オフェンス時でのミスが減り、3Pシュートの確率、速いトランジションのプレイやディフェン



スでのプレッシャーなどチームのパフォーマンスやプレイの精度も上がっていった。大会前にアメリカ代表との練習試合を組み、トランジションからの速い展開やドライブなどが自信になり、課題であったリバウンドやプレイの精度についても調整でき、予選リーグの試合で生かし首位通過という結果につながった。そして、良いチーム状態で決勝トーナメントへ進むことができた。

#### (6) 決勝トーナメント

予選リーグで試合を重ねるごとにプレイの精度やパフォーマンスも上がっており、その流れが準々決勝のロシア代表戦でも現れた。この試合でも、ユニバ代表はシュート確率が高く（3P シュートが50%、2P シュートが50%）89点取れ、ベンチメンバーの得点が相手の倍も取れたこと（ユニバ代表28点、ロシア14点）、平均身長が179cmと高い相手にリバウンドを4本多く取れたことが勝因に結びついたと考えられる。

続く準決勝の相手はアメリカ代表だった。大会直前に練習試合を行い課題であったリバウンドなどの再確認、アメリカ代表の予選リーグでの戦い方やチームの特徴をスカウティングして臨んだ。相手の特徴である、ゴール近辺でプレイをさせないようにディフェンスは小さく守ること、リバウンド、プレイのアジャストがこの試合で必要なことと考えられた。ユニバ代表は、試合を通じてトランジションからの速い展開と激しいディフェンスからミスを誘い得点に結びつけた。一方で、アメリカ代表は小さく守ってようがゴール近辺へ常にフィジカルにアタックし続け、ファウルをもらいフリースローを獲得したり、落ちたボールをリバウンドしてからのシュートを決めてきた。アメリカ代表のフィジカル、高さの影響からかゲーム終盤では、ユニバ代表にミスもあり、また足が止まり集中力が切れる場面も見られた。最終的にリバウンドは善戦した（ユニバ代表34本、アメリカ37本）が、フィジカルと高さで64点もゴール近辺で決められたことが敗因となり、3位決定戦に回ることになった。

2019 ナポリの最終試合となった、ポルトガル代表との3位決定戦は、延長戦にもつれ込む両者意地の戦いであった。ユニバ代表のシュート成功率は23/78本で29%（ポルトガル36%）、フリースローは5/13本で38%（ポルトガル79%）と低かったこと、延長戦での戦いが勝敗を決めたと考えられる。最終クォーターの残り時間が少ない状況の中で、ユニバ代表のプレイが得点に結びつかず、一方で相手は確実にフリースローやシュートを決めたことが延長

戦に持ち込まれた要因となった。延長では、ユニバ代表は再三好機を作るもののことごとくシュートがリングに弾かれ1点しか奪うことができなかった。一方で、ポルトガルは、連続4本の3P シュートやとゴール下での合わせのシュートを確実に決め、延長戦のスコアは、1対18で最終的には59-76で敗れ、全日程が終了した。



図6 決勝戦後 優勝国オーストラリアの様子

#### 5. 大会を振り返って

大会を振り返って、感じたことをいくつか記しておきたい。大会直前にアメリカ代表と練習試合を行えたことで、良い準備ができたように、強豪チームとの試合経験は必要である。それは、相手の身体的特徴からくる、リバウンドやディフェンス、間合い、その国々特有のプレイスタイルなど対戦することでしか経験できないからである。学生主体のチームがゆえに時間の確保や限られた予算の中で活動するには難しいこともあるが、海外チームが難しいのであれば、レベルが高い女子日本代表やWJBLチームと国内で数多く試合を組むことでも十分強化にはつながるだろう。

次に、技術、戦術面については、①リバウンドとルーズボール②シュート力③ディフェンスの重要性を再認識した。①リバウンドとルーズボールについてだが、平均身長を高くすることや、リバウンドを取らせないように常にコンタクトをしてボックスアウトを行うこと。全ポジションの選手がボールが落ちる方向を予測しリバウンドに行くことが大事である。ルーズボールでは、せっかくボールを取ってもヘルドボールになり、オルタネイティングポゼッションルールで相手ボールになってしまうケースが多々見られた。ボールを取る前、取った後の判断、スワイプなどの技術で取りきることが重要だろう。②シュート力は、コンスタントに決めれることや、接戦時に決めきれるだけの力が必要であ

る。大会を通して、速いトランジションからのドライブ、キックアウトは十分に通用し、数多のノーマークを作ることができたが、敗れた原因の一つとしてシュートを決めきる力が及ばなかったので、勝負所でのシュート力は必要だろう。③ディフェンスでは、小さいサイズを補い運動量でプレッシャーをかけ続けるディフェンスはできた。上述に加え、チームプレイの特徴や個人の得意なプレイに対するディフェンスのアジャスト力（相手に合わせディフェンス方法を変化させること）の遂行を徹底できればより強固な武器になるだろう。

## 6. おわりに

2019 ナポリを4位で終え、3大会連続ベスト4は世界でユニバ代表が十分に戦えたことが証明された。2019 ナポリに出場した選手がこの経験を生かし、2020年東京オリンピックはもちろんのこと、今後の女子日本代表を目指してさらなる活躍が期待される。

最後に、このような機会を提供して頂いたバスケットボール関係者の皆様はじめ、代表活動にご理

解とご協力頂いた筑波大学体育系の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



図7 2019ユニバID証

## 文献

小野秀二・小谷究監修（2017）バスケットボール用語辞典．廣済堂出版，東京．